2013年4月号「vol.34」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

神奈川県で2つの経済特区 経済成長けん引や地域活性化期待

国は「経済成長戦略の実現と地域主権改革の突破口に」と、平成23（2011）年度、総合特区制度をスタートさせました。国が指定した区域で、先駆的な取り組み、国と地域による集中、集積的な政策展開を推し進めるなかで、牽引役を担ってもらおうというもので、神奈川県内では横浜、川崎両市と県による「京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区」が23年12月、さがみ縦貫道路沿線地域等の9市2町（相模原市、藤沢市など）による「さがみロボット産業特区」が25年1月に指定を受けました。いずれの特区でも「規制」「税制」「財政」「金融」面で特例・支援措置を受けられ、「国と地方の協議会」を通じ、地域ニーズに応じた運用を図れるなどの利点があります。

京浜臨海部特区

目標を「グローバル企業による革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出」としています。羽田空港に臨む40㌶のトラック生産工場跡地を利用した殿町（川崎市川崎区）、横浜市鶴見区の末広、同中心部のみなとみらい、同南部の福浦の4つの区域から成っています。京浜臨海部は、100年にわたって日本経済の推進役を務め、技術革新を積み重ねてきた京浜工業地帯がベースとなっており、同特区にはポリオ根絶に取り組む動物実験中央研究所、iPS細胞技術を活用した再生医療の臨床前研究に取り組んでいる慶応大教授らの研究チームの拠点施設、理化学研究所横浜研究所、アミノ酸の研究で知られる味の素などの研究開発施設が多数集積しており、国立医薬品食品衛生研究所の移転、世界最大の医療・健康企業のジョンソン＆ジョンソンが進出す充実化が進んでいます。県は先端科学技術分野の研究開発と産業振興の融和に取り組んできた神奈川科学技術アカデミー（川崎市高津区）の関連施設を殿町に新設するなど、同アカデミーを特区事業に大いに活用していくことにしています。

さがみロボット特区

生活支援ロボットの実用化や普及を図り、実証環境を充実させるために関連企業の集積を進め、高齢化社会での介護負担増対策、災害時の捜索など県民の安心・安全に資することを旨としています。

コレが言いたい！

京浜臨海部特区では2016年までに2,955億円の経済効果を生み出すものと試算しています。20年後には14兆円と見込まれています。昨秋来の県議会で自民党から同特区への取り組みについての質問が出され、黒岩知事は「京浜臨海部特区と、多摩川を挟んで隣接し、外国企業を誘致することを目指している東京のアジアヘッドクオーター特区が連携しながら相乗効果を高めることはきわめて効果的」「新たな区域拡大を図っていきたい」旨の答弁をしています。私も「県民、国民の健康にかかわる県内の2つの特区」に関心を寄せ、注視していきたいと思います。

今月のひと言

磯っ子レポートの紙面が新しくなりました。
これからも県政を分かりやすく地域の皆さんにお知らせしていきます。

磯子 あれ？これ？

知っていますか？「磯子京菜」

磯子京菜

磯子京菜はかつて磯子周辺の農家で栽培されていた在来野菜で、株の大きさは白菜よりやや大きく、茎は水菜より太いものの柔らかく、以前は一夜漬けのお漬物や鍋の具として食されていましたが、漬物をつくる家庭が減ったことや核家族化が進み食べきれないなどの理由から徐々に姿を消していきました。

その磯子京菜を一度食卓に取戻し、もう一度地元に根付いた野菜にしようとする試みが進められています。地域でつくり地域で食す「地産地消」により伝統的な食文化が守られます。また、神奈川県では健康寿命日本一を目指し医食農同源の取組みが進められていますが、健康であるためには「食」が非常に重要であり、特に地産地消など農との連携が大事ですので、磯子京菜の復活に協力していきたいと思います。

活動報告

平成25年第一回厚生常任委員会に、議員提案による「理容師法施行条例及び美容師法施行条例の一部を改正する条例」が提出されました。この条例の一部改正案は、衛生基準の低下を防ぐことを目的としており、保健所設置五市（横浜・川崎・相模原・横須賀・藤沢）以外の市町村で理容所・美容所の店舗を新設する際、洗髪設備の設置を義務付けるものです。3月18日厚生常任委員会で議長に提出され、3月25日に本会議で議決されました。

条例とは自治体が国の法律の範囲内で自主的に制定する法規です。本県では、政策的条例（市民の暮らしに直接かかわる一般施策に関する条例）としては「がん克服条例」や「商店街活性化条例」などの議員提案はありますが、今回のように常任委員会による政策的条例の提案は神奈川県議会では初めてであり、全国でも稀です。地域主権が進む中、問題解決の為に、それぞれの地域の実情を考慮した独自性のある条例を制定することが必要です。これからも日頃の地域活動を通じ皆さんの要望や問題や課題をしっかりと聞き、地域の実情に応じた政策の為の条例づくりに取り組んでまいります。

あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成23年4月　県議会議員初当選
- 厚生常任委員
- 社会問題対策特別委員

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい …… FAX 045-761-7451